

マルセロ木村

vocal, guitar

コモブチキイチロウ

bass

2019 **03月31日(日)**

開場 19:30

開演 20:00~

(2ステージ 入替なし 途中入場可) (1drink=600円~)

MC 2800 円+2drinks order

CAFE **B**EULMANS

03-3484-0047

info.cafebeulmans@gmail.com

東京都世田谷区成城6-16-5-2F

メールでのご予約の場合、
必ず当日ご連絡がとれる電話番号を
ご記載ください。



マルセロ木村

1979年ブラジル サンパウロで音楽一家に生まれ、ギタリストである祖父の影響にて幼い頃からギターに慣れ親しむ。タトゥイでMarcos DelHommo, Pacheco よりギターを師事。若干16歳にして、タトゥイの音楽学校より講師のオファーを受け指導。個人レッスンやライブハウス・ラジオ・テレビ局などでも演奏を行い、その後ショー・ロ・サンバ・ボサノヴァは勿論、ロックやジャズも同等にこなし、それらをクロスオーバーさせた独自のサウンドスタイルを展開。2009年1月にインストゥルメンタル・サンバジャズユニット MISO BANANAを結成し、2010年1月にアルバム『Uirapuru』リリース。サウンドメーカーとしても国内外の多くの有名アーティストより信頼を受け、サウンド提供・アレンジ・レコーディングと幅広くサポート。

名古屋にMúsica&Bar Marcelo (ムジカ&バーマルセロ)をオープンさせ国内外の有名アーティスト(小野リサ、パウラ・リマなど)との素晴らしいセッションやサウンドをお届けするとともに、若手に活動の場を与え育成にも力を入れる。日々意欲的に音楽と向き合い、ソロとして世界に向け全国にて活動中。2013年10月に、ソロ名義初となるアルバム『Morro Do Urbana』をモーションブルー横浜でリリースLIVE2014年6月には、地元、名古屋ブルーノートにて「マルセロ木村CDリリースLIVE」を大成功におさめる。

コモブチキイチロウ

1966年東京生まれ。香港にて幼少期を過ごす。音楽好きの家庭に育ち、15歳でチョッパーベースのルイス・ジョンソンの演奏に感動しベースを始める。当時は母のクラシックギターの弦をを4本にして叩いていた。川端民生氏、ジョージ大塚氏に師事。ピットインなどのジャズライブハウスを中心にセッション活動を開始。90年代中頃からブラジル音楽の豊かさに吸い込まれるように傾倒するようになる。ボサノヴァ黄金期の一人、ロベルト・メネスカルとの出会いを機に1997年に開催されたボサノヴァ生誕40周年コンサート「Gets Bosa Nova」に多くのブラジルアーティストと共に出演。その後ワンダ・サー、カルロス・リラ、ドリ・カイミ、ミュシヤ、フィロー・マシャードなどの来日公演をサポートする。サンバの力強いグループを信条に掲げ、ジャズ、フュージョン、ラテン、R&B、ソウル、ポップス、フラメンコなど様々なバンドでも活動を展開している。国内では渡辺貞夫、渡辺香津美、カルロス菅野、マリーン、渡辺真知子、CHAKA、玉置浩二、小野リサ、古澤巖、クリヤマコト、島健、島田歌穂、柏木広樹、東儀秀樹、アンサリー 瀬木貴将、河口恭吾など数多くのライブ、ツアー、レコーディングに参加している。現在渡辺貞夫クインテット、渡辺真知子バンド、中路英明オパタラ・セグンドにレギュラーメンバーとして参加。オリジナルリーダーバンドの活動としてヴォーカルのCHAKAとデュオユニット【コチヂャン】を結成。歌とベースだけのシンプルな世界に挑戦している。